

岡山県健康の森学園支援学校

平成 25 年度

特別支援学校における

自立活動指導力向上事業公開授業

日 程

13:30 13:50 14:20 15:15 15:30 15:50 16:00

受 付	全体会	分科会	全体会		
	開会行事 本校の取組について	小：相談室3 中：会議研修室（前） 高：会議研修室（後） ・各部の取組について （VTRを含む） ・質疑・協議	各部報告	指導助言	閉会行事

※教材展示を会議研修室(前)に展示しております。

期 日 平成 25 年 11 月 5 日 (火)

会 場 岡山県健康の森学園支援学校

会議研修室・相談室 3

平成 25 年度 健康の森学園支援学校の「自立活動」の取組

1 本校の「自立活動の指導」

本校は開校時より自立活動に重点を置き、4～5名の自立活動専任教員を中心にして自立活動を行ってきた。しばらくの間、自立活動の専任教員を置かない時期があったが、今年度より、自立活動専任教員を配置し指導を行うこととなった。

2 本年度の活動

本年度は、自立活動係4名、そのうち専任2名（1名はコーディネーター兼務）でスタートした。これにより、これまでの担任による自立活動の指導だけでなく、自立活動専任教員による抽出指導を行い、自立活動の指導の充実を図っている

また、本年度の本校の取組の重点の一つに、「自立活動等の指導の充実」「発達段階に応じた個別指導と集団指導の効果的な在り方」が挙げられている。そこで自立活動専任教員が中心となり、自立活動に関しての研修、検討、特に知的障害児童生徒における自立活動の理解推進、及び専門性の向上を図ることを目標にした。

3 取組の概要

① 自立活動に関する研修

自立活動の内容、考え方等を職員全体で研修し、共通理解を図る目的で研修を行った。自立活動係を中心に学部単位で研修を行った。また、外部から各分野の専門の先生においていただき、講演会や児童生徒、職員への直接指導や相談等を通して専門的な研修を行った。

外部講師による研修（表1）

大森修平 先生	岡山かなりや学園	「子どもの発達と言葉」	5月：講演 6・10月指導
仲矢明孝 先生	岡山大学	「自立活動の指導の考え方と実践例」	8月：公開講座
村田尚道 先生	岡山大学病院	「口腔機能の発達」	7月：指導 11月：指導、講演
新谷義和 先生 岩田直也 先生	おかやま発達障害 支援センター	・自閉症に関する指導について	7・11月：指導
羽原史恭 先生	旭川児童院	・肢体不自由に関する指導について	11・2月：指導

岡山県総合教育センターのサポートキャラバン事業も活用し、小学部では、課題別学習を中心とした自立活動の取組について、高等部では、企業内作業学習と自立活動についてそれぞれ研修し、様々なご示唆をいただいた。

また、本事業の一環として、発達協会の夏季実践セミナーや、臨床発達心理士の服巻智子先生の研修会に参加し、校内で伝達のための研修報告会を行った。

② 自立活動指導計画、自立活動課題表の作成

これまで個別の指導計画の自立活動欄を基に指導を行ってきたが、新たに自立活動指導計画、自立活動課題表を職員全体で理解を深めながら作成した。知的障害の自立活動

は、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等の自立活動に比べ目標の設定や原因の分析がいまいになりがであるため、部単位、クラス単位など職員が協力しながら検討し作り上げていくことにした。

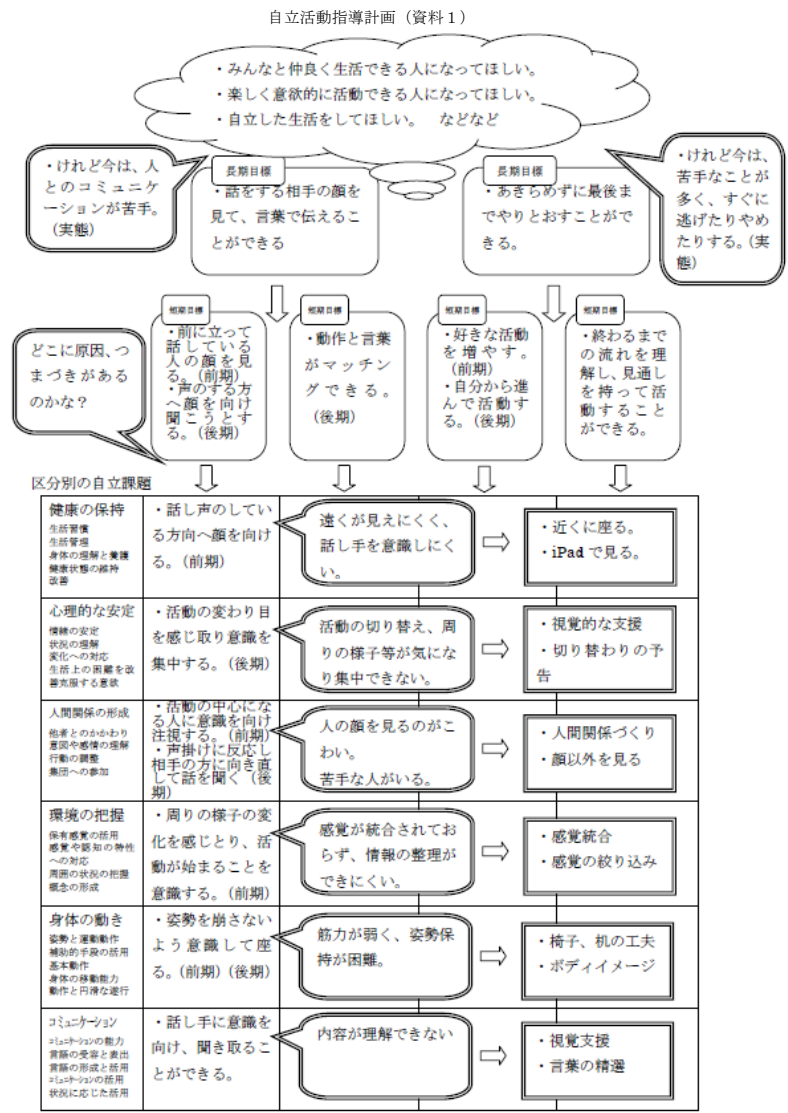
自立活動の流れ (表2)				
H25年度				
	4月	7・8月	9月	3月
実態把握				実態把握
自立活動指導計画	自立活動指導計画検討	自立活動指導計画(前後期)完成		自立活動指導計画反省・次年度(前期)作成
自立活動課題表		自立活動課題表(前期)検討・完成	自立活動課題表(前期)評価・(後期)完成	自立活動課題表(後期)評価
H26年度				
実態把握	新入生・転校生実態把握(～5月)			実態把握
自立活動指導計画	自立活動指導計画(前期)検討・完成	自立活動指導計画(後期)完成		自立活動指導計画反省・次年度(前期)作成
自立活動課題表	自立課題表(前期)完成		自立課題表(前期)評価・(後期)完成	自立課題表(後期)評価

自立活動指導計画に関しては、学部単位でグループ(学年)ごとに一人の事例を挙げ、自立活動指導計画をみんなで話し合いながら作成する演習方式で研修を行った。目標から課題へとつなげていく際に分析をしやすいするためのワークシートとして活用した。その際に次のポイントに重点を置き研修を進めた。

・将来像、卒業後の生活を想定し、予測できる個々の様々な条件をふまえながら、見通しをもって長期目標、短期目標について設定する。

・短期目標についてはなぜできないのかを分析し、必要性、適時性、実現性等を考慮しながら課題を設定する。

小学部と高等部ではボトムアップ、トップダウンと基本になる考え方は異なりがちであるが、12年間の流れ、そして卒業後の生活を意識し考えていくことで、児童生徒それぞれに合わせた計画を作成することを目指した。



演習後には、

- ・みんなで一人の児童生徒についての情報交換や将来像等について話し合うことを通して、課題を共有することができ、有効な方法だった。
- ・指導者が意見を出し合うことにより、様々な視点で児童生徒を見ることができ、視野が広がった。

というような声が聞かれた。児童生徒の人数と時間を考えると、すべてこの形で作成していくことは現状では困難ではあるものの、その有用性や必要性を感じられたことは、今後の取組に役立つのではないかと感じた。

自立活動課題表については、指導時間ごとに自立活動の区分を合わせてどのような内容で指導するかを具体的に書くことで、児童生徒の時間ごとの課題を明らかにし、共通理解をしようとして指導を行うことを目的に作成した。また、自立課題表に区分ごとの評価

自立活動課題表 (資料2)

〇〇部 〇年 氏名 〇〇 〇〇	性別: 女	担当者: △△ △△	課題表完成日	前期: 〇月〇日	後期:	評価記入日: 〇月〇日	評価記入日:				
指導区分・領域	実態	生活全般を通して	課題別学習	前運動	作業	体育	あそび	抽出指導	給食	評価	
										前期	後期
1.生活のリズムや生活習慣の 1.生活に関すること。 2.飲食の仕様の理解と生活習 慣に関すること。 3.身体年齢の状態の理解と身 体に関すること。 4.服装の仕様の理解・決断に 関すること。	基本的な生活習慣が身に付いて いるが、服装の理解と生活習 慣に関することは、服装の理解 に関すること。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装に関しては、対象児童の服装を 理解するために、服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
2.1.種類の安定に関すること。 2.2.状況の把握と変化への対応 に関すること。 3.服装の上着の手洗いや手拭 いに関すること。 4.服装の洗濯・乾燥に関する こと。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
3.1.服装とのかかわりの基礎に 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.自分の理解と行動の理解に 関すること。 4.服装への参加の基礎に関 関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
4.1.服装と生活の理解に関 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.服装の整理や整理の理解 に関すること。 4.服装の整理や整理の理解 に関すること。 5.服装の整理や整理の理解 に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
5.1.服装と生活の理解に関 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.服装の整理や整理の理解 に関すること。 4.服装の整理や整理の理解 に関すること。 5.服装の整理や整理の理解 に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
6.1.服装と生活の理解に関 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.服装の整理や整理の理解 に関すること。 4.服装の整理や整理の理解 に関すること。 5.服装の整理や整理の理解 に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
7.1.服装と生活の理解に関 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.服装の整理や整理の理解 に関すること。 4.服装の整理や整理の理解 に関すること。 5.服装の整理や整理の理解 に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									
8.1.服装と生活の理解に関 関すること。 2.服装の整理や整理の理解 に関すること。 3.服装の整理や整理の理解 に関すること。 4.服装の整理や整理の理解 に関すること。 5.服装の整理や整理の理解 に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。	服装の理解と生活習慣が身に 付いていない。服装の理解と 生活習慣に関すること。服装 の理解に関すること。服装の 理解に関すること。服装の理 解に関すること。									

欄を設け、次の指導に生かすことができるのではないかと考えた。様々な場面で指導、支援を行った成果を授業の課題ごとだけでなく、自立活動の各区分ごとの観点から、児童生徒をどのように変容させていったのかをみることであればと考えている。

③ 自立活動と抽出児童生徒を決定するための考え方とプロセス

新たに自立活動専任教員による抽出指導という指導の形が増えたため、自立活動全般の指導形態について研修を行った。指導の形態として集団、個別、指導者として担任、専任、それぞれの組み合わせで、効果的に自立活動を行っていくことをふまえ、次の点について共通理解を図り、自立活動の指導を開始することにした。

- ・自立活動の指導は原則児童生徒の担任が計画を作成し実施する。自立活動係は相談、資料提供などの支援を行う。
- ・担任、学年団等の話し合いの中で、指導形態として抽出の指導が必要かつ担任以外の指導者が適切と考えられる場合、自立活動係と協議を行い抽出指導を含め適切な指導形態を決定する。

4 成果と課題

本年度より自立活動専任教員が置かれ、新しい形での自立活動となった。しかし、自立活動専任教員も含め手探りの状態である。その中で、自立活動の研修を行ったり、自立活動指導計画、自立活動課題表を作り上げたりできたことは大きな成果である。自立活動に目を向け、学び、実践していくための第一歩を踏み出すことができた。

しかし、今後の課題として多くのことが見えてきた。自立活動の考え方、指導形態、課題の設定等、まだまだこれから学び、研究していかなければならないことが山積みである。

また、自立活動指導計画、自立活動課題表に関しても、より良いものにするための様式の検討、活用するための方法が課題としてあげられる。小中高の12年間を見通した自立活動を考えながら、それに合った自立活動指導計画、自立活動課題表はどうあるべきなのか。また、それらを適切に引き継ぎ活用していくためにはどのようにしていけばよいのかを学校全体で検討していく必要がある。

抽出指導に関しても、どのような指導の場面、方法、指導者が適切なのかを検討決定していくシステム作りや指導方法の研究、自立活動の指導の情報共有化などが課題として考えられる。また、様々な活動に般化できるよう、担任、担当、寄宿舎と連携して効果的な指導を行うことができるかということについても、今後の課題であると考えている。児童生徒の豊かな生活を目指してこれからも取り組んでいきたい。

H26年度 自立活動指導計画

氏名
性別
学年

設定日
(前)
(後)
記録者

長期目標

長期目標

短期目標

短期目標

短期目標

短期目標

自立活動の課題

健康の保持 生活習慣 生活管理 身体を理解と養護 健康状態の維持 改善				
心理的な安定 情緒の安定 状況の理解 変化への対応 生活上の困難を改善 克服する意欲				
人間関係の形成 他者とのかかわり 意図や感情の理解 行動の調整 集団への参加				
環境の把握 保有感覚の活用 感覚や認知の特性 への対応 周囲の状況の把握 概念の形成				
身体の動き 姿勢と運動動作 補助的手段の活用 基本動作 身体の移動能力 動作と円滑な遂行				
コミュニケーション コミュニケーションの能力 言語の受容と表出 言語の形成と活用 コミュニケーションの活用 状況に応じた活用				

H26 自立活動指導内容表

部 年 氏名		性別:	担当者:	課題設定日	前期:	後期:	評価記入日:	評価記入日:	
実態	指導区分・領域	指導内容						評価	
		生活全般を通して						前期	後期
	1 健康の保持	1.生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 2.病気の状態の理解と生活管理に関する事。 3.身体各部の状態の理解と養護に関する事。 4.健康状態の維持・改善に関する事。							
	2 心理的な安定	1.情緒の安定に関する事。 2.状況の理解と変化への対応に関する事。 3.障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。							
	3 人間関係の形成	1.他者とのかかわりの基礎に関する事。 2.他者の意図や感情の理解に関する事。 3.自己の理解と行動の調整に関する事。 4.集団への参加の基礎に関する事。							
	4 環境の把握	1.保有する感覚の活用に関する事。 2.感覚や認知の特性への対応に関する事。 3.感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 4.感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。 5.認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事							
	5 身体の動き	1.姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 2.姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 3.日常生活に必要な基本動作に関する事。 4.身体の移動能力に関する事。 5.作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。							
	6 コミュニケーション	1.コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 2.言語の受容と表出に関する事。 3.言語の形成と活用に関する事。 4.コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 5.状況に応じたコミュニケーションに関する事。							